

平成23年度 自 己 評 価 表

鳥取県立皆生養護学校

中長期目標 (学校ビジョン)	学び、輝き、感動のある学校 幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、より良く生きることができるよう支援する学校 《 18歳で自立できる人を育てる 》 ～社会に繋ぎ時代を生き抜く力の育成～	今年度の 重点目標	○幼児・児童・生徒の能力・特性に応じた指導の充実を図る。 ○幼児・児童・生徒の可能性を伸ばし、社会参加していく力を育てる。
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月			
評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
一人一人に視点をあてた 学習指導の充実	自立活動部	●肢体不自由児に対する発達検査と、発達段階ごとの学習支援についての研修は充実したか。	●実態把握の方法や把握した実態に対しての学習の設定に曖昧な面がある。	●全教員が実態把握とそれを活かした授業づくりに関する研修を受けている。	●発達検査と発達段階の特徴に関する研修を複数回行う。 ●自立活動通信で実践事例を紹介していく。			
	教科指導部	●授業改善を行い、学力の向上を図ることができたか。 ●深い児童生徒理解に努め、学習評価に最適な指導案の作成やその活用ができたか。	●各教科主任間の連携や各教師の教科指導に関する共通理解が十分とはいえない面がある。 ●公開授業や校内研究会等で教職員の連携や意識改善を図り、教科指導力の向上と充実に努める必要がある。	●簡潔で指導の意図のわかる指導案を作成し、個々の児童生徒の実態に応じた確かな学力を付けることができる。	●深い児童生徒理解とその共通理解を図る。 ●個別の指導計画を基盤とした教科指導をする。 ●教科間の連携(公開授業、校内研究会)を図る。 ●指導内容の精選と系統的指導について検証する。 ●繰り返し指導を徹底する。			
	研究	●研究テーマに沿った各研究グループの取り組みについて、情報交換・共通理解・確認する場を設定したことは、授業改善に有効だったか。	●昨年度まで、各研究グループの取り組みが分かりにくく連携が弱かった。 ●外部専門家の指導助言を授業改善に活かしつつある。	●グループを中心とした取り組みが、学校全体のものとなり、PDCAサイクルを積上げた授業改善が行われている。	●個別的教育支援計画、個別の指導計画を活用した授業内容の精選と支援のあり方を検討しながらすすめる。 ●3年計画の3年目として、前年度までの積上げを活かし、研究のまとめとして、各グループによる研究授業を実施する。			
18歳の自立を見据えた進路指導の充実	進路指導部	●集めた情報を整理し、様々な方法で継続的に情報発信することができたか。 ●各学部の進路指導に関する共通理解を図ることができたか。	●進路に関する情報発信に取り組んでいるが、継続して必要である。 ●各学部においての進路指導に関する共通理解が十分とはいえない。	●ニーズを把握し、それらに基づいた情報収集・発信ができている。 ●各学部からの意見を踏まえ、進路指導計画の活用、見直しが進んでいる。	●定期的な進路指導通信の発行、職場開拓、施設・作業所見学、進路研修会等の実施。 ●幼稚部から高等部までの一貫した進路指導計画の活用の充実が図られるよう広報活動、校内研修等に努める。			
ニーズに対応できる専門性の向上	自立活動部	●発達に応じた教材・教具の整備をすることと実践例紹介はニーズに対応できたか。 ●支援機器、自助具の機能別整理をすることとそれらの使用例紹介はニーズに対応できたか。	●養護・訓練時代の教材、支援機器等はあるが、必要なものがどこにあるのかわかりにくい。また、使い方、学習利用に最適な発達段階や動作の状態がわからないことがある。	●発達段階や身体の動きに応じて、教材・教具、支援機器を整理・整備する計画が立ち、1年目の取り組みを終えている。	●発達段階に応じた学習内容に適した教材・教具の研修を行う。 ●動作の状態に応じた支援機器の利用についての研修行う。 ●自立活動通信で実践事例を紹介していく。			
センター的機能の推進	支援部	●肢体不自由特別支援学校としての専門性を発揮できたか。	●肢体不自由児の障がい特性を踏まえた支援の在り方についての情報提供が十分ではない。	●地域支援活動や教育相談活動を円滑に行い、ニーズや課題に応じた効果的な支援を行っている。	●担任研修会、学校公開、地域訪問、キャンプ等を通して、地域子どもたちの実態やニーズ・課題の把握に努める。 ●関係機関や特別支援学校との情報交換に努める。			
社会に繋ぐ活動推進	交流活動	●実態や生活年齢に合った交流活動ができたか。 ●交流及び共同学習を通して互いを認め合ったり、学び合ったりすることができたか。	●教育課程上の位置づけやねらい、評価等を明確にしていく必要がある。	●幼児・児童・生徒相互、地域の人々との交流活動を通して経験を深め、社会性を養うとともに、積極的に社会に参加しようとする態度を育てる。 ●教育課程上の位置づけやねらい、評価等を明確にする。	●交流校への情報発信と共通理解を図る。 ●打ち合わせ会や反省会の充実を図る。 ●手紙、ビデオレター等の間接交流を行う。			
	学習情報部	●リアルタイムな情報発信ができているか。 ●記事内容は、閲覧者の期待するものとなっているか。	●作成後の校内稟議システムにより、公開までに時間差ができてしまう。リアルタイムに記事更新できていない。 ●記事更新に関わっている者が一部の職員になりがちなため、内容が偏りがちになっている。	●稟議システムの合理化をはかる等により、迅速に情報発信できるようにする。 ●記事作成に関わる職員が増え、情報内容も幅広いものになる。	●稟議システムを改善、簡略化し、迅速に公開できるようにする。 ●ホームページ作成研修会をもち、ほとんどの職員が記事作成に関われるようにする。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】